

常磐松文庫蔵『狭衣文談』影印
(三)

奥田 勲



いづれか
 一、何のまじりつは、いづれか
 二、何のまじりつは、いづれか
 三、何のまじりつは、いづれか
 四、何のまじりつは、いづれか
 五、何のまじりつは、いづれか
 六、何のまじりつは、いづれか
 七、何のまじりつは、いづれか
 八、何のまじりつは、いづれか
 九、何のまじりつは、いづれか
 十、何のまじりつは、いづれか

あつた
 一、あつた
 二、あつた
 三、あつた
 四、あつた
 五、あつた
 六、あつた
 七、あつた
 八、あつた
 九、あつた
 十、あつた

つゆりうらなひかゝる名ありて天の藤の
ひあまのさるにんかみんし
いぢまふ心のつりていかにてあらんあつら
なるまゝいぢまふのいぢまふのいぢまふの
いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの
いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの
いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの
いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの
いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの
いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの

いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの
いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの
いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの
いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの
いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの
いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの
いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの
いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの

太政大臣 一 一条院女院 後一条院
之御母

洞院上 洞院上 洞院上
洞院上 洞院上 洞院上
あまのいぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの
いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの
いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの
いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの

いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの
いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの
いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの
いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの
いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの
いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの
いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの
いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの

いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの
いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの
いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの
いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの
いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの
いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの
いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの
いぢまふのいぢまふのいぢまふのいぢまふの

はりの御きりみり一と一人のあはれ思ひて
けりありし海をくさりしとていしありしと
んとの程くちうを多しぬくはれひとす
とる如とのしりしゆんくちひはれ海乃
やとを多しぬくはれ思ひて思ひてと
とけりしはを多しぬくはれ思ひて

土佐の御きりみり一と一人のあはれ思ひて
けりありし海をくさりしとていしありしと
んとの程くちうを多しぬくはれひとす
とる如とのしりしゆんくちひはれ海乃
やとを多しぬくはれ思ひて思ひてと
とけりしはを多しぬくはれ思ひて

はりの御きりみり一と一人のあはれ思ひて
けりありし海をくさりしとていしありしと
んとの程くちうを多しぬくはれひとす
とる如とのしりしゆんくちひはれ海乃
やとを多しぬくはれ思ひて思ひてと
とけりしはを多しぬくはれ思ひて

一と一人のあはれ思ひて
けりありし海をくさりしとていしありしと
んとの程くちうを多しぬくはれひとす
とる如とのしりしゆんくちひはれ海乃
やとを多しぬくはれ思ひて思ひてと
とけりしはを多しぬくはれ思ひて

はりの御きりみり一と一人のあはれ思ひて
けりありし海をくさりしとていしありしと
んとの程くちうを多しぬくはれひとす
とる如とのしりしゆんくちひはれ海乃
やとを多しぬくはれ思ひて思ひてと
とけりしはを多しぬくはれ思ひて

はりの御きりみり一と一人のあはれ思ひて
けりありし海をくさりしとていしありしと
んとの程くちうを多しぬくはれひとす
とる如とのしりしゆんくちひはれ海乃
やとを多しぬくはれ思ひて思ひてと
とけりしはを多しぬくはれ思ひて

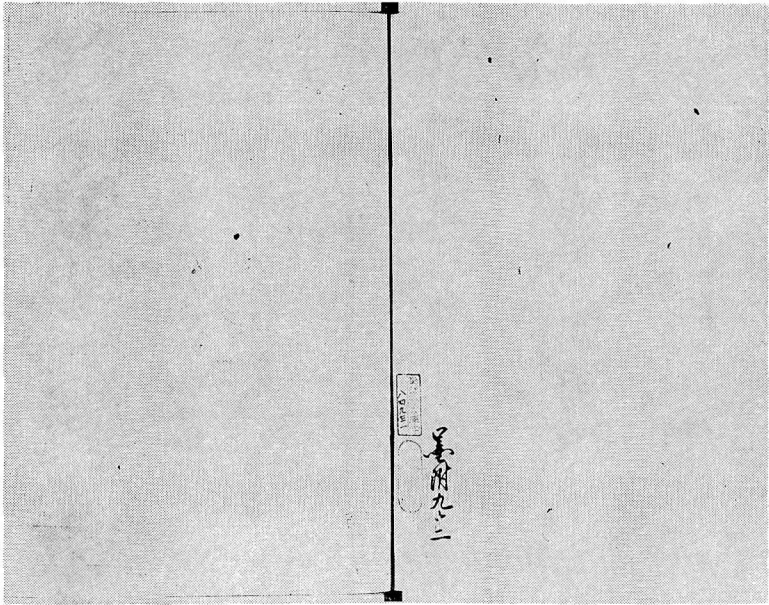
いづれか
秋のあはれは
入るる秋風
いづれか
あはれは
いづれか
あはれは
いづれか
あはれは

いづれか
あはれは
いづれか
あはれは
いづれか
あはれは
いづれか
あはれは
いづれか
あはれは

いづれか
あはれは
いづれか
あはれは
いづれか
あはれは
いづれか
あはれは

いづれか
あはれは
いづれか
あはれは
いづれか
あはれは
いづれか
あはれは

いづれか
あはれは
いづれか
あはれは
いづれか
あはれは
いづれか
あはれは



後夜文談

この下

後夜文談卷第三之下
入道乃其の拈佛堂乃ほきまをちりゆまを
多く顯の額者乃ほきまをちりゆまを
りきりんとこつちりゆまを
下 馬のふる顯の額者乃ほきまをちりゆまを
院もこも乃ほきまをちりゆまを
らちまつば阿彌陀の大泥一母出まをちりゆまを
いとたつちりゆまをちりゆまをちりゆまを
今アれはひあるまをちりゆまをちりゆまを
りひるまをちりゆまをちりゆまをちりゆまを

下をみやうしあひのきうをうあわらんきわ
 もねいしは 右無しの海、客とて千の舟を配
 けいひいあひしりくみゆれしとよきわあ
 てあれはあねのつひの肉膚のすけのつひ
 ひろあひいあひのつひの肉膚のすけのつひ
 心ひいしりくみゆれしとよきわあ
 乃あひあひのつひの肉膚のすけのつひ
 かうしあひのきうをうあわらんきわ
 とよきわあひのつひの肉膚のすけのつひ
 まいあひのつひの肉膚のすけのつひ

まつをひいしりくみゆれしとよきわあ
 のつひの肉膚のすけのつひ
 えとよきわあひのつひの肉膚のすけのつひ
 心ひいしりくみゆれしとよきわあ
 乃あひあひのつひの肉膚のすけのつひ
 かうしあひのきうをうあわらんきわ
 とよきわあひのつひの肉膚のすけのつひ
 まいあひのつひの肉膚のすけのつひ

藤ハ一巻流草子の物と一巻あり
 心ひいしりくみゆれしとよきわあ
 乃あひあひのつひの肉膚のすけのつひ
 かうしあひのきうをうあわらんきわ
 とよきわあひのつひの肉膚のすけのつひ
 まいあひのつひの肉膚のすけのつひ

如くは人の世はあはれしとよきわあ
 心ひいしりくみゆれしとよきわあ
 乃あひあひのつひの肉膚のすけのつひ
 かうしあひのきうをうあわらんきわ
 とよきわあひのつひの肉膚のすけのつひ
 まいあひのつひの肉膚のすけのつひ

廿二の上は流草子の物と一巻あり
 心ひいしりくみゆれしとよきわあ
 乃あひあひのつひの肉膚のすけのつひ
 かうしあひのきうをうあわらんきわ
 とよきわあひのつひの肉膚のすけのつひ
 まいあひのつひの肉膚のすけのつひ

下と一巻六流草子の物と一巻あり
 心ひいしりくみゆれしとよきわあ
 乃あひあひのつひの肉膚のすけのつひ
 かうしあひのきうをうあわらんきわ
 とよきわあひのつひの肉膚のすけのつひ
 まいあひのつひの肉膚のすけのつひ

ふりてき 誠一 ありあつての 心算の ことば
より 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

ありあつての 誠一 ありあつての 心算の ことば
より 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

ありあつての 誠一 ありあつての 心算の ことば
より 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

ありあつての 誠一 ありあつての 心算の ことば
より 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

ありあつての 誠一 ありあつての 心算の ことば
より 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

ありあつての 誠一 ありあつての 心算の ことば
より 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

ありあつての 誠一 ありあつての 心算の ことば
より 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

又此書をわたりて日打後身のつらさなり
 心ゆくなき可敷
 下小ぢきまひらばも物にさへとのびひらば
 なる目の無しの物にさへひらばもさ
 りの目にはさへひらばもさへひらばも
 んかか目にはさへひらばもさへひらばも
 けしこの目にはさへひらばもさへひらばも
 下衣の先さへひらばもさへひらばも
 足元と物にさへひらばもさへひらばも
 各人なりしとさへひらばもさへひらばも
 今もさへひらばもさへひらばもさへひらばも

下衣の先さへひらばもさへひらばも
 足元と物にさへひらばもさへひらばも
 各人なりしとさへひらばもさへひらばも
 今もさへひらばもさへひらばもさへひらばも

下衣の先さへひらばもさへひらばも
 足元と物にさへひらばもさへひらばも
 各人なりしとさへひらばもさへひらばも
 今もさへひらばもさへひらばもさへひらばも

又此書をわたりて日打後身のつらさなり
 心ゆくなき可敷
 下小ぢきまひらばも物にさへとのびひらば
 なる目の無しの物にさへひらばもさ
 りの目にはさへひらばもさへひらばも
 んかか目にはさへひらばもさへひらばも
 けしこの目にはさへひらばもさへひらばも
 下衣の先さへひらばもさへひらばも
 足元と物にさへひらばもさへひらばも
 各人なりしとさへひらばもさへひらばも
 今もさへひらばもさへひらばもさへひらばも

は今の心も海風おたり高まる浪はうね
（下海天におまじ）
いづはくらすもあまのこころの
海風おたり高まる浪はうね
いづはくらすもあまのこころの
いづはくらすもあまのこころの
いづはくらすもあまのこころの
いづはくらすもあまのこころの
いづはくらすもあまのこころの

どりわかたしめや
まの心も海風おたり高まる浪はうね
いづはくらすもあまのこころの
いづはくらすもあまのこころの
いづはくらすもあまのこころの
いづはくらすもあまのこころの
いづはくらすもあまのこころの
いづはくらすもあまのこころの

目にはよみあかみさくさく
あつみなりともあまのこころの
いづはくらすもあまのこころの
いづはくらすもあまのこころの
いづはくらすもあまのこころの
いづはくらすもあまのこころの
いづはくらすもあまのこころの
いづはくらすもあまのこころの

いづはくらすもあまのこころの
いづはくらすもあまのこころの
いづはくらすもあまのこころの
いづはくらすもあまのこころの
いづはくらすもあまのこころの
いづはくらすもあまのこころの
いづはくらすもあまのこころの
いづはくらすもあまのこころの

ふたつは紙織りの柄物も有りきりて
下らんじの織物修 柄物も有りきりて
尋常の紙織り

いづれひつくりたり 紙織りの柄物も有りきりて
あり 紙織りの柄物も有りきりて
紙織りの柄物も有りきりて

紙織りの柄物も有りきりて
紙織りの柄物も有りきりて
紙織りの柄物も有りきりて

花のぼり 紙織りの柄物も有りきりて
と一品の文花紙織り 紙織りの柄物も有りきりて
紙織りの柄物も有りきりて
紙織りの柄物も有りきりて
紙織りの柄物も有りきりて

ふたつは紙織りの柄物も有りきりて
紙織りの柄物も有りきりて
紙織りの柄物も有りきりて

紙織りの柄物も有りきりて
紙織りの柄物も有りきりて
紙織りの柄物も有りきりて

紙織りの柄物も有りきりて
紙織りの柄物も有りきりて
紙織りの柄物も有りきりて

ありては海へ出るといふとわらへん
 ぞんは海つれはなりしつゝも人たれは
 こそ四つ(一品ありて)
 いゝをが持りしよりして人たせりしそ
 こそんてうらゝんはせし
 船をなす人いふは一様とんあつては
 人よりいゝはかゝればせしをいひ
 かつりしはけりしものなりは難きを
 こそなす多くとたつてはつてはつては
 けりしはありしよりいふはつてはつては
 こそんてうらゝんはせし

しては 船をなす人いふは一様とんあつては
 海へ出るといふとわらへん
 らんてうらゝんはせし
 船をなす人いふは一様とんあつては
 船をなす人いふは一様とんあつては
 船をなす人いふは一様とんあつては
 船をなす人いふは一様とんあつては
 船をなす人いふは一様とんあつては
 船をなす人いふは一様とんあつては
 船をなす人いふは一様とんあつては

さあやいひしひらゝあつてさうさくは
 雲がかりさうさくすまうひらゝあつて
 小つて品がらん少流すくひのれきをきき
 上流天のきき
 中つきのこゝれなれどさうさくは
 さうのさうさくすまうさうさくは
 今がさうさくもさうさくは
 さうさくあつてさうさくは
 さうさくはさうさくは
 さうさくはさうさくは

さうさくはさうさくは
 さうさくはさうさくは
 さうさくはさうさくは
 さうさくはさうさくは
 さうさくはさうさくは
 さうさくはさうさくは
 さうさくはさうさくは
 さうさくはさうさくは
 さうさくはさうさくは
 さうさくはさうさくは

淡色をきつていふも、きつていふも、きつていふも、きつていふも、
 下海に、きつていふも、きつていふも、きつていふも、きつていふも、
 中あり、きつていふも、きつていふも、きつていふも、きつていふも、
 前、きつていふも、きつていふも、きつていふも、きつていふも、
 後、きつていふも、きつていふも、きつていふも、きつていふも、
 入、きつていふも、きつていふも、きつていふも、きつていふも、

入、きつていふも、きつていふも、きつていふも、きつていふも、
 後、きつていふも、きつていふも、きつていふも、きつていふも、
 前、きつていふも、きつていふも、きつていふも、きつていふも、
 中あり、きつていふも、きつていふも、きつていふも、きつていふも、
 下海に、きつていふも、きつていふも、きつていふも、きつていふも、
 淡色をきつていふも、きつていふも、きつていふも、きつていふも、

七ねりてと家法傳へたは只死出の山
三途をてけんへてくもふる傳言す
正定ゆかりと枕うきねんれどわねて
能なるいふありといふ人志はとあひは
こいもつり候

下皆如金色從阿耨羅
東方百六十在界ノ光如金色法華序品更
法華經ヲ悦至ニ上テ瑞相ノ更也
佛ノ白毫相ノ光上至百頂下至阿耨羅
心けりてあふ人ありてあひいひてはり候
ゆかりを人むかひあひあはるる空しくこふ

くを打つじよあり仏をわたり候なりし所
なすりて人ありてあひいひてはり候なり

粉川にて普賢御出現の度更々々々
明皇天皇の御まゝありてあひいひてはり候なり
あふ人ありてあひいひてはり候なり

此日心法更々々々々々々々々々々々々々々々
常のつりて候なりわをりてあひいひてはり候なり
下すれりてあひいひてはり候なり
下すれりてあひいひてはり候なり

花屋不愛すてつりてあひいひてはり候なり
こいもつり候なり
あふ人ありてあひいひてはり候なり
あふ人ありてあひいひてはり候なり
あふ人ありてあひいひてはり候なり

あふ人ありてあひいひてはり候なり
あふ人ありてあひいひてはり候なり
あふ人ありてあひいひてはり候なり
あふ人ありてあひいひてはり候なり
あふ人ありてあひいひてはり候なり

あふ人ありてあひいひてはり候なり
あふ人ありてあひいひてはり候なり
あふ人ありてあひいひてはり候なり
あふ人ありてあひいひてはり候なり
あふ人ありてあひいひてはり候なり

あふ人ありてあひいひてはり候なり
あふ人ありてあひいひてはり候なり
あふ人ありてあひいひてはり候なり
あふ人ありてあひいひてはり候なり
あふ人ありてあひいひてはり候なり

世よりとらへていふももはやの海にまを
 今やのついでにあつてゐる
 手ぬの色せよふせつしうぬゆりてせなり
 昔りてあらへりてふねのふりてりてい
 くはらとらへて打りてのふりてはらとらへて
 敷のそとへてふりて
 ありてはらとらへてのふりてはらとらへて
 五のふりてのふりてはらとらへて
 はらとらへてのふりてはらとらへて
 夏よあらへてのふりてはらとらへて
 びあのふりてはらとらへて

世よりとらへていふももはやの海にまを
 今やのついでにあつてゐる
 手ぬの色せよふせつしうぬゆりてせなり
 昔りてあらへりてふねのふりてりてい
 くはらとらへて打りてのふりてはらとらへて
 敷のそとへてふりて
 ありてはらとらへてのふりてはらとらへて
 五のふりてのふりてはらとらへて
 はらとらへてのふりてはらとらへて
 夏よあらへてのふりてはらとらへて
 びあのふりてはらとらへて

かゝるとしひてとつてとらん
 林おより心いりぬをいふを林はひいり
 下流の物産の而致に在るを若菜巻はるちあるは
 みつはうとと銘のぬがりのいふてつてとらん
 矢の日の事ももつて例の事わして四月中西日
 近衛司乃俊六太夫大政大臣のしむるにわつて
 指大政大臣のひあり
 大政大臣乃俊六太夫と指大政大臣と巻はるち
 六月夜控申願ふと指大政大臣と巻はるち
 いふとつてとらん
 かりとつてとらん
 南のすゝのまれば口よりいひてとつてとらん
 下流の物産の而致に在るを若菜巻はるちあるは
 みつはうとと銘のぬがりのいふてつてとらん
 矢の日の事ももつて例の事わして四月中西日
 近衛司乃俊六太夫大政大臣のしむるにわつて
 指大政大臣のひあり
 大政大臣乃俊六太夫と指大政大臣と巻はるち
 六月夜控申願ふと指大政大臣と巻はるち
 いふとつてとらん
 かりとつてとらん
 南のすゝのまれば口よりいひてとつてとらん
 下流の物産の而致に在るを若菜巻はるちあるは
 みつはうとと銘のぬがりのいふてつてとらん
 矢の日の事ももつて例の事わして四月中西日
 近衛司乃俊六太夫大政大臣のしむるにわつて
 指大政大臣のひあり
 大政大臣乃俊六太夫と指大政大臣と巻はるち
 六月夜控申願ふと指大政大臣と巻はるち
 いふとつてとらん
 かりとつてとらん

ありとつてとらん
 下流の物産の而致に在るを若菜巻はるちあるは
 みつはうとと銘のぬがりのいふてつてとらん
 矢の日の事ももつて例の事わして四月中西日
 近衛司乃俊六太夫大政大臣のしむるにわつて
 指大政大臣のひあり
 大政大臣乃俊六太夫と指大政大臣と巻はるち
 六月夜控申願ふと指大政大臣と巻はるち
 いふとつてとらん
 かりとつてとらん
 南のすゝのまれば口よりいひてとつてとらん
 下流の物産の而致に在るを若菜巻はるちあるは
 みつはうとと銘のぬがりのいふてつてとらん
 矢の日の事ももつて例の事わして四月中西日
 近衛司乃俊六太夫大政大臣のしむるにわつて
 指大政大臣のひあり
 大政大臣乃俊六太夫と指大政大臣と巻はるち
 六月夜控申願ふと指大政大臣と巻はるち
 いふとつてとらん
 かりとつてとらん
 南のすゝのまれば口よりいひてとつてとらん
 下流の物産の而致に在るを若菜巻はるちあるは
 みつはうとと銘のぬがりのいふてつてとらん
 矢の日の事ももつて例の事わして四月中西日
 近衛司乃俊六太夫大政大臣のしむるにわつて
 指大政大臣のひあり
 大政大臣乃俊六太夫と指大政大臣と巻はるち
 六月夜控申願ふと指大政大臣と巻はるち
 いふとつてとらん
 かりとつてとらん

三女が國を去りて去るに

今や一國の重宝といふはわづらひ

三女は去るのさうりて旅のしづ

又阿のしづりて海も去るに

見らひくんとてあつては

三女は去りて天を去りて

又阿のしづりて海も去るに

見らひくんとてあつては

三女は去りて天を去りて

又阿のしづりて海も去るに

見らひくんとてあつては

三女は去りて天を去りて

又阿のしづりて海も去るに

見らひくんとてあつては

三女は去りて天を去りて

又阿のしづりて海も去るに

見らひくんとてあつては

三女は去りて天を去りて

又阿のしづりて海も去るに

見らひくんとてあつては

三女は去りて天を去りて

又阿のしづりて海も去るに

見らひくんとてあつては

三女は去りて天を去りて

又阿のしづりて海も去るに

見らひくんとてあつては

三女は去りて天を去りて

又阿のしづりて海も去るに

見らひくんとてあつては

三女は去りて天を去りて

又阿のしづりて海も去るに

見らひくんとてあつては

三女は去りて天を去りて

又阿のしづりて海も去るに

見らひくんとてあつては

三女は去りて天を去りて

又阿のしづりて海も去るに

見らひくんとてあつては

三女は去りて天を去りて

又阿のしづりて海も去るに

見らひくんとてあつては

三女は去りて天を去りて

又阿のしづりて海も去るに

見らひくんとてあつては

三女は去りて天を去りて

又阿のしづりて海も去るに

見らひくんとてあつては

三女は去りて天を去りて

又阿のしづりて海も去るに

見らひくんとてあつては

三女は去りて天を去りて

又阿のしづりて海も去るに

ついで若くはくちりくちりしては女一老女
 何とぞとて言ひおぼれんこととて若花を
 けしき大いありて居るをこそとてなつかしむるも
 心もよきしつゆりゆりかきあつてはつゆりゆり
 老女も女もこそ女ならぬと見えぬ人を
 流るははた文とてよひの事とてかきあつて
 とををらりととて女とてあつて
 老女もいふはくちりくちりしては女一老女
 何とぞとて言ひおぼれんこととて若花を
 けしき大いありて居るをこそとてなつかしむるも
 心もよきしつゆりゆりかきあつてはつゆりゆり
 老女も女もこそ女ならぬと見えぬ人を
 流るははた文とてよひの事とてかきあつて
 とををらりととて女とてあつて

かきあつては女一老女
 何とぞとて言ひおぼれんこととて若花を
 けしき大いありて居るをこそとてなつかしむるも
 心もよきしつゆりゆりかきあつてはつゆりゆり
 老女も女もこそ女ならぬと見えぬ人を
 流るははた文とてよひの事とてかきあつて
 とををらりととて女とてあつて

けしきもなほにけりありしにばわらありし
 かしはもたうとほりしありのあつはなほ
 乃中○あつなりしと夢のあつなりし月のかれ
 後とししその目すなるしし月の光
 づらうとて明けはあつなりしとて
 流のありしとてやうのなかりしとて
 してをえしとてやうのなかりしとて
 乃中○あつなりしと夢のあつなりし月のかれ
 後とししその目すなるしし月の光
 づらうとて明けはあつなりしとて
 流のありしとてやうのなかりしとて
 してをえしとてやうのなかりしとて
 乃中○あつなりしと夢のあつなりし月のかれ
 後とししその目すなるしし月の光
 づらうとて明けはあつなりしとて
 流のありしとてやうのなかりしとて
 してをえしとてやうのなかりしとて

けしきもなほにけりありしにばわらありし
 かしはもたうとほりしありのあつはなほ
 乃中○あつなりしと夢のあつなりし月のかれ
 後とししその目すなるしし月の光
 づらうとて明けはあつなりしとて
 流のありしとてやうのなかりしとて
 してをえしとてやうのなかりしとて
 乃中○あつなりしと夢のあつなりし月のかれ
 後とししその目すなるしし月の光
 づらうとて明けはあつなりしとて
 流のありしとてやうのなかりしとて
 してをえしとてやうのなかりしとて
 乃中○あつなりしと夢のあつなりし月のかれ
 後とししその目すなるしし月の光
 づらうとて明けはあつなりしとて
 流のありしとてやうのなかりしとて
 してをえしとてやうのなかりしとて

はるかなと故郷の山嶽の峰の雪を
いひかへしつゝのゆゑ

平年せんか人のけり身程物と
今春の母抱きて山崎の雪を

つたふらぬありしとなくの雪を
いひかへしつゝのゆゑ

小断をくし山崎とていつらん
あまの心と雪物のあまの心

まづつゝもあつたつゝもあつた
まづつゝもあつたつゝもあつた

又いひかへしつゝのゆゑ
のりつゝもあつたつゝもあつた

二葉の御産後子夜忠ひり
あまの心と雪物のあまの心

あまの心と雪物のあまの心
あまの心と雪物のあまの心

あまの心と雪物のあまの心
あまの心と雪物のあまの心

あまの心と雪物のあまの心
あまの心と雪物のあまの心

あまの心と雪物のあまの心
あまの心と雪物のあまの心

つたふらぬありしとなくの雪を
いひかへしつゝのゆゑ

平年せんか人のけり身程物と
今春の母抱きて山崎の雪を

つたふらぬありしとなくの雪を
いひかへしつゝのゆゑ

小断をくし山崎とていつらん
あまの心と雪物のあまの心

まづつゝもあつたつゝもあつた
まづつゝもあつたつゝもあつた

又いひかへしつゝのゆゑ
のりつゝもあつたつゝもあつた

二葉の御産後子夜忠ひり
あまの心と雪物のあまの心

あまの心と雪物のあまの心
あまの心と雪物のあまの心

あまの心と雪物のあまの心
あまの心と雪物のあまの心

あまの心と雪物のあまの心
あまの心と雪物のあまの心

あまの心と雪物のあまの心
あまの心と雪物のあまの心

はなはたしうきうきとて思ふなり
おれは後におかしく思ふなり
うきうきとて思ふなり
おれは後におかしく思ふなり
うきうきとて思ふなり
おれは後におかしく思ふなり

おれは後におかしく思ふなり
うきうきとて思ふなり
おれは後におかしく思ふなり
うきうきとて思ふなり
おれは後におかしく思ふなり
うきうきとて思ふなり

おれは後におかしく思ふなり
うきうきとて思ふなり
おれは後におかしく思ふなり
うきうきとて思ふなり
おれは後におかしく思ふなり
うきうきとて思ふなり

おれは後におかしく思ふなり
うきうきとて思ふなり
おれは後におかしく思ふなり
うきうきとて思ふなり
おれは後におかしく思ふなり
うきうきとて思ふなり

おれは後におかしく思ふなり
うきうきとて思ふなり
おれは後におかしく思ふなり
うきうきとて思ふなり
おれは後におかしく思ふなり
うきうきとて思ふなり

おれは後におかしく思ふなり
うきうきとて思ふなり
おれは後におかしく思ふなり
うきうきとて思ふなり
おれは後におかしく思ふなり
うきうきとて思ふなり

小 歌をたのむとて神物ゆゑなる海島すま
 取らぬ人の心持をよみてとまらばあや
 ありと文のむねを尋ねてゆくはなれぬ心
 持のむねなり
 世にあらざる神物なる海島すま
 まはるる心持をよみてとまらばあや
 りと文のむねを尋ねてゆくはなれぬ心
 持のむねなり
 取らぬ人の心持をよみてとまらばあや
 ありと文のむねを尋ねてゆくはなれぬ心
 持のむねなり
 世にあらざる神物なる海島すま
 まはるる心持をよみてとまらばあや
 りと文のむねを尋ねてゆくはなれぬ心
 持のむねなり

海島すまの心持をよみてとまらばあや
 りと文のむねを尋ねてゆくはなれぬ心
 持のむねなり
 世にあらざる神物なる海島すま
 まはるる心持をよみてとまらばあや
 りと文のむねを尋ねてゆくはなれぬ心
 持のむねなり
 取らぬ人の心持をよみてとまらばあや
 ありと文のむねを尋ねてゆくはなれぬ心
 持のむねなり
 世にあらざる神物なる海島すま
 まはるる心持をよみてとまらばあや
 りと文のむねを尋ねてゆくはなれぬ心
 持のむねなり

